▼レットヴィモカプセル　［内］

【重要度】　【一般製剤名】セルペルカチニブ　Selpercatinib　【分類】抗悪性腫瘍剤［RET 受容体型 TKI］
【単位】▼40mg・▼80mg/cap
【常用量】1 回 160mg を 1 日 2 回［適宜減量］
【用法】
【透析患者への投与方法】データなし（1）
【保存期 CKD 患者への投与方法】AUC（free 体）が，中等度腎機能障害患者で 1.89 倍，重度腎障害患者で 1.54 倍（1）
【特徴】RET，EGFR，FGF 等のキナーゼ活性を阻害．RET 融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌に適用.
【主な副作用･毒性】肝機能障害，QT 延長，過敏症，高血圧，皮膚症状，消化器症状など
【安全性に関する情報】QT 延長のポテンシャルあり，投与前 QTc 間隔 470msec 以下であること．電解質異常がないかを確認（1）
【吸収】溶解度は pH の上昇により低下（1）AUC は食事の影響をほとんど受けない（1）
【F】73.2%（1）
【tmax】
【代謝】CYYP3A4 によって代謝（1）CYP2C8，3A を阻害（1）血中では主に未変化体として存在（1）
【排泄】尿中未変化体排泄率 11.5%［po，432hr まで］（1）
BCRP の基質で乳汁移行の可能性あり（1）
【CL/F】4.31L/hr（1）
【t1/2】
【蛋白結合率】96%（1）
【Vd】
【MW】525.60
【透析性】
【O/W 係数】
【相互作用】CYP2C8，3A4 基質薬物の血中濃度上昇（1）CYP3A4 阻害剤・誘導剤の影響あり（1）胃酸抑制により吸収低下の可能性（1）MATE1 阻害（1）
【肝障害患者への投与方法】
【小児 CKD 患者における報告】
【妊婦・授乳婦への投薬】
【主な臨床報告】RET 融合遺伝子は非小細胞肺がんの 1～2%で同定（Drilon A, et al: N Engl J Med 2020 PMID: 32846060）
【更新日】20240921

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。